

2019年4月26日

千葉県知事 森田 健作 様

第一生命保険株式会社
代表取締役社長 稲垣 精二

平成 30 年度活動状況報告書

平成 30 年度の活動について下記の通り報告いたします。

記

I. 高齢者の見守り

昨年度に引き続き、成田支社管轄内の12市7町（佐倉市・八街市・東金市・四街道市・銚子市・香取市・匝瑳市・旭市・成田市・印西市・富里市・山武市・九十九里町・横芝光町・芝山町・多古町・東庄町・神崎町・酒々井町）を中心に、そして成田支社以外の県下3支社にも適宜活動を連携し活動範囲を広げながら、日々の地区訪問活動等を通して女性ならではの視点を生かし、地域の高齢者の見守りに取り組んでまいりました。

成田支社においては、毎月1日を高齢者見守り活動進発日と定め、特にこの日は改めて生涯設計デザイナー一人ひとりが「高齢者が安心して暮らせる地域社会づくり」という目的を再認識する日として、70歳以上のご契約者宅への定期訪問や地域の見守り活動を積極的に行っております。

活動も5年目に入り、地域の高齢者を見守るという意識は十分浸透しており、今年度に「感謝の声」として報告のあった中で、高齢者見守り・救助・支援に関する事例は100事例を超えております。また離れて暮

らしているご家族からも見守り活動に対する感謝のお言葉を多数いただいております、地域の皆さまのお役に立てていることを実感しております。

※ 今年度の事例につきましては別紙にて提出しております。

*別紙*見守り事例「感謝の声」より抜粋



年月	見守り事例
H30.7月	仕事へ向かう途中、バス停でうずくまっている高齢の男性を発見しました。慌てて車を止めて駆けつけたところ、意識はあり、暑さで眩暈がして一瞬くらっと意識が遠のき、倒れてしまったそうです。日陰に移動し水を買ってきて飲んでいただくとしばらくして落ち着かれたので、次のバスが来るまで一緒に待ちました。気付いていただいて、助かりました。本当にありがとうございます」と何度も何度も感謝のお言葉をいただきました。大事に至らなくて本当に良かったです。
H30.8月	夜、仕事からの帰り道、道端に座りこんでいる高齢の男性がいたので車を止めました。どうしたのですかと声を掛けしたところ、転んでしまって歩けなかったのでちょっと休んでいたということでした。お家はどちらなのか伺うと、お近くでしたので車に乗せて送らせていただきました。ご自宅には娘さんがご在宅で、事の成り行きをお伝えしたところ、ありがとうございます。本当に助かりました」と、とても感謝していただきました。
H31.1月	年始のご挨拶に2人で伺った時のことです。インターフォンを押しても反応がなかったので帰ろうとしたのですが、玄関が開いたので「ごめんください」と声を掛けてみました。すると、家の中からはっきりとした声で「助けて!」と聞こえたので、2人で家の中にお邪魔したところ、台所で、おばあさまが椅子から落ちた状態で、冷たい床の上に倒れていました。2人で抱えて暖かいところに移動し、落ち着いてからお話を伺ったところ、一人で留守番をしていたのですが、椅子から落ちてしまい、体が不自由なので動けずに1時間くらいその状態でいたそうです。家族は夕方まで帰ってこないでこのまま死ぬのかなと思った。あなた方が来てくれて命拾いましたよ。ありがとうございます」と、とても感謝していただきました。
H31.2月	一人暮らしで心配なので、まめに連絡を入れているお客さま(69歳)。パレンタインのチョコをお渡しする日の連絡で、2月14日から4日間電話をしていましたが、お出にならなかった為、心配で17日にご自宅に伺いました。すると、車もあり、室内の電気も点いていて室内にはいらっしやる様子。しかし、返事がありませんでした。気になったので、翌日の18日に支社スタッフに相談し、千葉市孤独死防止通報制度により美浜区の地域振興課に通報。管理人さんと立会の方が部屋に入り確認したところ、お風呂場で亡くなっていました。診断書上、死因は不明でしたが、2月上旬に亡くなられていたようです)もうお客さまにお会いする事が出来ない寂しさはありますが、異変に気付いて1日でも早く見つけてあげられて良かったと思いました。

県内の各市町村との「高齢者見守りネットワーク」協定の締結におきましては、2019年3月末現在で、15市7町と締結しております。

II. 「ちばSSKプロジェクト」の普及

『私たちは高齢者を見守っています』と書かれた、ちばSSKプロジェクトのロゴ入りネームホルダーを社員は常に身につけて活動し、地域に幅広く高齢者見守りについての認知度を高め、更に高齢者見守り活動を行っていることを地域の方々にお知らせするためのチラシも、県のちばSSKプロジェクトのチラシとともに配布するなど、「ちばSSKプロジェクト」の普及啓発に日々努めております。

チラシ ↓

ホルダー ↓



Ⅲ. 認知症対策

認知症サポーター養成講座の受講につきましては、今年度も6月に開催、今までの515名（退社した社員も含む）に加え、さらに49名が認知症サポーターとなり、成田支社においては、全社員が認知症サポーターです。また、認知症徘徊SOSネットワーク事業の取組のある自治体とも締結しており、今年度も7件の徘徊者の救助報告がありました。

*別紙*見守り事例「感謝の声」より抜粋

↓

年月	見守り事例
H30.8月	お客さま宅への訪問時、宅配便の荷物が未開封のまま大量に置いてあったり、何のご商売かわからない方の名刺が置いてあるなど玄関口の様子を不安に思うことが多々ありました。離れて暮らしている娘さんにそんなお父さまの様子をお伝えしたところ、認知症が進んでいたようで、必要のないものをどんどん購入してしまっているということがわかりました。今回、介護施設に入所することとなり、娘さんより「一緒に暮らしていないとわからない事も多いので、いろいろ教えていただいたことが、施設入所のきっかけになりました。今まで見守ってくださって本当に有難うございました」と感謝のお言葉をいただきました。認知症サポーターの知識を活かし、ご家族のお役に立ててよかったです。
H30.12月	オフィスから帰宅途中、目の前で70代位の男性が転んでしまい頭を縁石にぶつけたようで、しばらく立ち上がれませんでした。意識はあり、家はここから歩いて10分ほどの所だから、救急車は呼ばなくていいとおっしゃるのですが、住所を聞いたところ10分では行けない場所でしたので、上司に電話で相談し家まで送らせていただくことにしました。家に着くと、奥様が心配そうに出てこられて「奥は、少し認知症になっているのでGPSをつけていたのですが、途中で切れてわからなくなりましたので、まさに警察に連絡しようと思っていたのです」とおっしゃるのです。頭をぶつけてしまったことをお話し、病院に行ってくださいとお願いしました。後日、奥様がオフィスにお礼にみえて、異常がなかったと報告してくださいました。

IV. 高齢者の生きがい、健康、仲間づくり

一人暮らしの高齢者のお話し相手や日常のささやかなお手伝いをする
ことで、一人ではないことを実感していただけていることを、日々の感謝
の声から伺えます。

また、健康診断の受診率の向上を地域の皆さまに推進しており、がん検
診においても受診おすすめチラシを配布して、積極的にがん検診の啓発に
も取り組んでいます。

V. 高齢者の安心・安全

毎月、生命保険協会千葉県協会を通じて送付される「千葉県警察から
のお知らせ」を活用し、ニセ電話詐欺の未然防止に向けての地域への声
かけにも力をいれて活動しております。

高齢者宅訪問時、過度な宅配物等が置かれているなど、不審な情報が
見受けられたときには、ご家族に連携し被害の拡大を防止しました。引
続き、一人でも多くの方にお声かけして、被害の未然防止に努めます。

*別紙*見守り事例「感謝の声」より抜粋



年月	見守り事例
H30.5月	ご高齢のお客さま宅を訪問した時の事です。お客さまと話している最中に電話がかかってきました。お電話の様子が戸惑われているようでしたので、どういったお話なのか伺ったら、高額商品のセールスでした。お客さまが「はい、お願いします」と答えたので、驚いて「はっきり断らないと高額商品を買わされてしまいますよ」とお伝えしたところ、慌ててはっきり断って電話を切りました。最近、耳が不自由で相手が何を言っているのかよく分からず、適当に返事をしてしまうので、あなたがいてくれて本当に助かりました」とおっしゃっていただきました。ご高齢の方を狙った販売を目の当たりにして、未然に防ぐ事が出来て良かったです。
H31.1月	高齢のお客さま宅に訪問した時、お客さまが何か慌てている様子で電話をされている最中でした。お電話口で相手の方にお伝えしているのは口座番号で、その慌て方が普通ではなかったので心配になり、電話を切られたあとどうしたのかと尋ねました。すると、突然の電話がかかってきて何かのお金を振り込みたいので、至急口座番号を教えて欲しいと言われ、ご自身の口座番号を教えていたとのこと。話の状況を不審に思った職員が事の成り行きをその金融機関に連携しました。後日、お客さまのご息女から「銀行から連絡があり、事前に電話を頂いていたおかげで詐欺を防止することが出来ました」と言われました。その節は本当に機転を利かせていただき、ありがとうございました」というお礼のお電話をいただきました。

以上